



(1) 成瀬仁蔵

1858（安政5）年、現在の山口市で武士の家に生まれる。教育者として、女子の中等教育機関の校長として尽くすが、1890（明治23）年の渡米を転機に、日本で女子のための高等教育機関をつくることを決意。1896（明治29）年に『女子教育』を上梓、女子大学設立運動を起こして、1901（明治34）年に日本女子大学を創設。女子高等教育への道を開いた。1919（大正8）年逝去。

(2) ラーニング・コモンズ

少人数による授業をはじめ、各種ミニ講座や、学部生・大学院生が担当するラーニング・サポーターによる学修相談を行い、学生たちはコミュニケーションを深めながら自発的に学ぶ。また自治体や企業等と連携し社会への扉を開き、地域・世界へ発信する拠点でもある。2019年に開館した図書館と、新しい教室・研究棟である百二十年館に設置。

(3) 教養特別講義

「教養特別講義」は必修科目。成瀬が創立以来続けた講義「実践倫理」が原点。日本女子大学の歴史と伝統を知り、本学で学ぶ意義の理解と自己形成につなげる。また、社会の第一線で活躍する講師陣を学内外から招聘し、講演やディスカッションを行う。

(4) 桜楓会

正式名称は「一般社団法人日本女子大学教育文化振興桜楓会」。卒業生によって組織される団体で1904（明治37）年に創設。目白キャンパスにある本部を拠点に国内外に約150の支部があり、在学生のための奨学金助成、留学生との交流・支援などを行っている。  
女性で初めて帝国大学（東北大学）で学んだ農学博士・丹下ウメや、女性解放・世界平和運動に偉大な足跡を残した平塚らいてう、作家で文化勲章受章者の平岩弓枝も卒業生。建築界のノーベル賞ともいわれる米ブリツカー賞を受賞した建築家の妹島和世氏や脚本家の大石静氏、漫画家の高橋留美子氏らの活躍は社会的にも高く評価されている。

と大学院のすべてが集結し、女子総合大学として文理融合の多様な教育を推進しています。  
近年は教育改革の一環として、2022年度から理学部2学科は学科の教育・研究内容を明確に反映させることを目的とし、数物科学科は数物情報科学科に、物質生物科学科は化学生命科学科に名称変更しました。2023年度には、『脱教室・脱キャンパス型』の実践的なカリキュラムで、「世界を、時代を、自分を超える。」をコンセプトとして『越境力』を育む国際文化学部を開設。2024年度には、数多くの著名な建築家を輩出した家政学部住居学科を基とし、『住まう』人のための「建築デザイン」を学ぶ建築デザイン学科を開設します。そして2025年度には、現在の家政学部食物学科を発展させる構想で「食科学部（仮称）」の開設を計画しています。  
他方で、2021年に立ち上げた社会連携教育センターでは、多くの地域連携や企業との連携プロジェクトを推進しています。図書館や百二十年館のラーニング・コモンズなどを利用して、多角的なプロジェクトを展開しています。



『住まう』人のための建築デザインを学びます（建築デザイン学部建築デザイン学科）

2024年4月、建築デザイン学部を開設！  
— 建築でかえられることのすべてを。—

建築デザイン学部建築デザイン学科では、人文、理工、芸術を融合した総合学問として『住まう』人のための「建築デザイン」を学びます。基となる家政学部住居学科は、世界的な建築家・妹島和世氏をはじめ、著名な建築家や各分野で活躍する卒業生を数多く輩出してきました。

住居から都市空間までの広範な専門分野の理解とそれらを統合するデザイン教育をカリキュラムの根幹としており、住生活、歴史文化、安全性、快適性、構造・材料、審美性など、広い視野から住居学および建築学を総合的に学修します。

初年次から中核をなす6分野（建築デザイン、生活、計画、歴史、構造・構法、環境・設備）の基礎的知識を網羅的に学び、建築デザイン学の全体像を把握するとともに、専門分野における共通言語を身につけます。

どの研究分野の科目を選択しても、卒業と同時に一級建築士や建築施工管理技士、建築設備士などの国家資格の受験資格が取得可能です\*。

\*要実務経験1〜3年以上。資格により異なる。



全国の女子大学で1位にランクインしています。  
このほか、学ぶ意欲を支援するため、多くの賞や奨学金を設けています。人物・学業ともに優秀な学生を

表彰する「日本女子大学学業成績優秀賞・研究奨励賞」（授業料後期分免除）や創立者を記念した「成瀬仁蔵先生記念賞」（卒業時に記念品を授与）、経済支援を目的とした、「日

本女子大学桜楓奨学金」や「日本女子大学泉会学業支援給付奨学金」などがあります。  
**境界を越え世界の文化にふれ、グローバルに学ぶ**

2023年に開設した国際文化学部では、1年次必修の「スタディ・アプロード・プログラム（海外短期研修）」で海外を直接体験し、2〜3年次必修の「実践プログラム（海外・国内）」で新たな気づきを成果物としてまとめあげ、ICTを駆使して発信します。異なる文化・地域・言語を直接体験したり、知識と体験を行き来して『越境』したりなど、さまざまな境界を越えて自分の殻を破り、『越境力』を育みます。

公認海外短期研修には、春や夏の長期休暇を生かして、語学や専門領域を学ぶ研修、異文化体験を目的とした研修などがあります。  
また、世界の名門大学と交流協定を締結し、本学学生の派遣と協定大學生の受け入れを行っています。米国の名門女子大学、ウェルズリー・

2024年の学部学科構成

- 建築デザイン学部 ※2024年4月開設 建築デザイン学科
- 家政学部
  - 児童学科 / 食物学科(食物学専攻・管理栄養士専攻) / 被服学科 / 家政経済学科
- 文学部
  - 日本文学科 / 英文学科 / 史学科
- 人間社会学部
  - 現代社会学科 / 社会福祉学科 / 教育学科 / 心理学科
- 理学部
  - 数物情報科学科 / 化学生命科学科
- 国際文化学部
  - 国際文化学科

カレッジもその一つです。留学中に取得した単位は30単位まで卒業単位に認定され、4年間で卒業することも可能で、独自の奨学金制度を設けて経済的な支援も行っています。  
**女性の一生を見据えたきめ細かなキャリアサポート**  
創立当初から「実践倫理」という人格形成に資する授業を行ってきた日本女子大学では、「キャリア」を「生き方」としてとらえるキャリア教育を実施しています。社会への貢献や人生を豊かにするためのキャリアを主体的にデザインする力を養う「JWUキャリア科目」と「JWU社会連携科目」を必修としています。学生一人ひとりの「自己発見」と「自己実現」をサポートしています。これに加え、各種ガイダンスや個別支援など実践的な就職支援プログラムも展開。2023年3月卒業生の就職率は99.1%と極めて高い実績を上げています。内定先企業に対する学生の満足度も98.5%と高く、「就職に強い日本女子大学」の定評を確かなものにしていきます。日本女子大学の同窓会組織、桜楓会のも積極的

日本女子大学は、日本初の組織的な女子高等教育機関として創立し、2021年に120周年を迎えました。私立女子大学唯一の理学部を有し、2024年に建築デザイン学部を開設、文理融合の教育環境を持つ女子総合大学です。

創立者である成瀬仁蔵<sup>(1)</sup>の教育理念を集約した三綱領「信念徹底」「自発創生」「共同奉仕」は明治から令和の現在にまで受け継がれ、各界にリーダーを輩出してきました。また卒業生以外にも門戸を開くリカレント教育など、誰もが生涯を通じて学び、成長し続ける社会を創るための機会を提供しています。

そして、成瀬の教育方針である「自學自動」、すなわち自ら学び、自ら行動する学修姿勢を育む環境で、多様で非連続に変化する社会において、新しい明日を共に創る人材を育てています。

# 日本女子大学

〒112-8681 東京都文京区目白台2-8-1 入試課 TEL 03-5981-3786 <https://www.jwu.ac.jp/unv/>



百二十年館（手前）と百年館

幅広い教養を身につける質の高い教育と研究力  
日本女子大学は、入学時から教員によるアドバイザー制度を取り入れ、

少人数による教育を充実させるなど細やかに学生を支援しています。各学部とも少人数の演習を重視した質の高い授業が特色で、卒業論文・卒業制作は全学科必修です。  
所属する専門科目を深く学ぶことに加えて、「教養を深める科目」で広い視野も養っています。その代表的な科目が「教養特別講義<sup>(2)</sup>」です。「自ら人生を切り開くとともに社会に貢献できる人材」の養成を目指し1966年に始まったもので、学園の理念や精神を学び、各界で活躍する講師の講演で思考を深めます。  
学際的に提供するカリキュラムは約3000科目に上り、学部を横断的に学ぶ自由選択科目も充実。他学部や他学科の科目を履修することで幅広い教養を身につけます。また、変化の激しい現代にあつて、自分らしく活躍でき、幅広い思考力、表現力、実践力を身につけるために、「キャリア」「社会連携」「AI・データサイエンス・ICT」という三つの基盤的教育認定プログラムを2021年度から開始しました。  
さらに、学習院大学・学習院女子大学・立教大学・早稲田大学との単位互換制度「Campus」や、同志社女子大学との学生交流協定などダイナミックな学びの環境も提供しています。  
一方、教員の研究力にも定評があります。文部科学省「令和4年度科学研究費助成事業の配分」において、全国の研究機関で新規採択率は18位、

# 私が動く、世界がひらく。2024年に建築デザイン学部を開設！6学部15学科の女子総合大学へ

総合力を生かした文理融合の多様な教育を推進

日本女子大学は、女性が主体性と自立性を確立する場として、多様性に富む優れた教育環境を有しています。2021年の創立120周年を機に、建学以来の伝統ある家政学部、多くの文学者やジャーナリストを輩出した文学部、全国に先駆けて開設した人間社会学部、私立女子大学では唯一の理学部を、山手線内という都心がありながら緑豊かな創立の地・目白キャンパスに統合しました。卒業生であり世界的な建築家の妹島和世氏によるグラッドデザインののもと、新しくなったキャンパスに大学

と大学院のすべてが集結し、女子総合大学として文理融合の多様な教育を推進しています。  
近年は教育改革の一環として、2022年度から理学部2学科は学科の教育・研究内容を明確に反映させることを目的とし、数物科学科は数物情報科学科に、物質生物科学科は化学生命科学科に名称変更しました。2023年度には、『脱教室・脱キャンパス型』の実践的なカリキュラムで、「世界を、時代を、自分を超える。」をコンセプトとして『越境力』を育む国際文化学部を開設。2024年度には、数多くの著名な建築家を輩出した家政学部住居学科を基とし、『住まう』人のための「建築デザイン」を学ぶ建築デザイン学部建築デザイン学科を開設します。そして2025年度には、現在の家政学部食物学科を発展させる構想で「食科学部（仮称）」の開設を計画しています。  
他方で、2021年に立ち上げた社会連携教育センターでは、多くの地域連携や企業との連携プロジェクトを推進しています。図書館や百二十年館のラーニング・コモンズなどを利用して、多角的なプロジェクトを展開しています。

幅広い教養を身につける質の高い教育と研究力  
日本女子大学は、入学時から教員によるアドバイザー制度を取り入れ、